

漣痕と貝の這い跡

れんこんとかいのはいあと

市指定

所在地：河原町



中生代白亜紀の初め頃（約1億年前）篠山市一帯に分布する古生層の山の一部分が陥没し淡水湖を作った。そこに篠山層群と名付けられた地層が堆積した。この層が堆積する途中、湖の浅い砂泥の上に棲息していた貝類の這い跡や岸にうち寄せたさざ波の跡（漣痕）が消えずに残り化石化した。そして、この堆積が後に隆起し、我々の目に留まるようになった。これが、本経寺背後の崖斜面に見られる貝の這い跡と漣痕である。

篠山盆地に、過去に湖の時代があったことを物語る痕跡である。